社会科シリーズ掲載

授業グレードアップ

Vol. 47

学びに〝プラス１〟選挙の大切さを伝える！

選挙権年齢を「１８歳以上」に引き下げる改正公職選挙法が、２０１６年6月１９日に施行されることに伴い、政治や社会参加への意識を育てるため、中学校・高校における主権者教育の充実に向けた取組が求められています。

そこで、今回の〝**プラス１**〟は、子どもたちに「選挙の大切さ」を感じてもらうために、社会科の授業等で、子どもたちに伝えたい話を紹介します。

～カンボジアの選挙のために生きた　中田厚仁さん～

中田さんは、１９９２年からＵＮＴＡＣ・国連カンボジア暫定統治機構のボランティアとして、カンボジアの総選挙の公正な実施に向けて懸命に支援活動を行いました。

カンボジアでは、約２０年間内戦が続き、その間、一度も選挙が行われませんでした。ですから、カンボジアの国民は、選挙の意味や仕組みがよく分かっていなかったそうです。中田さんは、選挙人登録のためにカンボジア各地を回り、人々に選挙の大切さを説明しました。そして、投票所に行って投票するように呼びかけました。カンボジアは、日本のように道路が整備されているわけではありません。道路が使えなければ、川に出てフェリーを使い、フェリーで行けない村には、カヌーで行ったり、時には泳いで行ったりしたそうです。

カンボジアには、ポルポト派と呼ばれる武装革命組織があり、選挙に反対していました。選挙が行われて議会制民主主義が確立すると、ポルポト派の力が弱まるからです。ポルポト派は武装し、選挙の妨害を繰り返していました。また、カンボジア国内には、おびただしい数の地雷が埋められていました。中田さんらの支援活動は、正に命がけでした。カンボジアを民主的で平和な国にしたいという強い思いが、中田さんを支えていたのです。

しかし、１９９３年４月、自動車で移動中、何者かによって銃で撃たれ帰らぬ人となりました。２５歳という若さでした。

中田さんの四十九日の法要と同じ日、１９９３年５月２３日からカンボジアで総選挙が行われました。中田さんが赴任していた地域の投票率は９９．９％を記録しました。

開票作業をしていたら、投票箱からいくつもの手紙が出てきたそうです。

【投票箱に入っていた中田さんへの手紙の一つから】

「今まで民主主義とか人権とかいう言葉に触れることなく、一生戦争の中で暮らさねばならないと思っていました。でも、初めて自分たちの意思を表す選挙ができ、こんなに嬉しいことはありません。」

投票用紙以外の物を投票箱に入れるのは禁止されていましたが、カンボジアの人々は、立会人に見つからないように手紙を入れたようです。それは、選挙を見届けることなく殉職した中田さんへの感謝のメッセージでした。

１９９５年、中田さんの功績を称えて、七つの村を併合した「ナカタアツヒト・コミューン」という新しい村ができました。そして、中田さんの思いを後世に伝えたいと、「ナカタアツヒト小学校」が建設されました。

中田さんは、カンボジアの人々に、選挙の大切さを命がけで伝えました。それは、中田さん自身が、民主主義のすばらしさを理解していたからでしょう。

《参考》

動画共有ポータルサイトのＹｏｕＴｕｂｅでは､「カンボジアの民主化のために生きた若者 中田厚仁」というタイトルで、中田さんの功績を約７分間の映像で紹介しています。（URL　https://www.youtube.com/watch?v=N0zop5v3X08）